

平成27年度 自己評価報告書

世田谷区立船橋希望中学校

I. 本校の目標及び計画

1. 教育目標

人権尊重の精神を基調として、希望をもち、未来に羽ばたく、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成するため、次の教育目標を設定する。

- 認め合い、励まし合う、豊かな心をもつ生徒
- 深く考え行動する、学ぶ意欲のある生徒
- 磨き合い、高め合う、心身ともに健康な生徒

2. 学校評価を踏まえた重点目標

「ことばの力」を基盤として、以下の重点目標を達成することを通して、知的活動の質をより一層高め、表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。

(1) 人間的な触れ合いを深める環境をつくるとともに、コミュニケーション能力を高め、豊かな心の育成を図る。

「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた」と実感できる生徒を85%以上にする。

(2) 日々の授業を充実させ、生徒一人ひとりに確かな学力を身につけさせる。

「授業の内容が理解できる」と実感できる生徒を80%以上にする。

(3) 基本的な生活習慣を確立させ、自己実現を図るための強い心を育てる中で、一人ひとりが大切にされ、お互いが認め合い協力しあえる集団を育成する。

「学校のきまりを守って行動している」と自覚できる生徒を90%以上にする。

3. 学校の教育目標並びに重点目標を達成のための基本方針

(1) 「豊かな人間性」を育む学校

- ① 学校行事や宿泊行事における共同活動を通して、学校や学級への所属感を高めるとともに、成就感や感動を体験させ、互いに鍛え合い、切磋琢磨し、認め合い・支え合い・高め合える活動、充実感や達成感のある活動を推進する。
- ② 地域活動やボランティア活動の充実を図り、社会の一員としての自覚や他の人の思いやる心を育む。
- ③ 人格の形成をめざし、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認め、よりよい人間関係を築けるよう、人権教育や特別支援教育、心の教育を充実する。
- ④ 職場体験をはじめ生き方指導を充実させ、生徒の自己実現を支援する。
- ⑤ 相談機能を充実・強化し、生徒一人ひとりに応じた生活指導を行い、人間性を高め、いじめを許さない校風を確立する。学校いじめ防止基本方針を策定するとともに、いじめ防止対策委員会を設置し、いじめの未然防止、早期発見、いじめへの対処を適切に行う。
- ⑥ 交流活動を推進し、伝え合う力や表現力など、コミュニケーション力を育む。
- ⑦ 正義感があり、公平・公正な行動ができる生徒を育成する。

(2) 確かな学力をつける学校

- ① 「豊かな知力」を育成するため、各教科等の指導方法や指導体制の工夫改善に取り組み、個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育成し、主体的に学習に取り組む態度を養う。また、入学時に「中学校生活のしおり」を配布し、家庭と連携して学習習慣を確立させる。
- ② 学習習得確認調査を行い、その結果を「学び舎」で共有し、指導改善のための具体的な計画を検討する。
- ③ 卒業後の進路選択に向けた実践的な学力を身につけさせるため、9月より3年生を対象に、土曜講習会、放課後補習、朝学習を実施する。
- ④ 「ことばの力」を育成するため、「美しい日本語を世田谷の学校から」の取り組み、教科「日本語」の授業はもとより、すべての教育活動を通して、「読む」「書く」「聞く」「話す・話し合う」活動を充実させる。また、2年生を対象に、週1回「新聞の社説の要約」を行う。
- ⑤ 朝読書の時間や読書指導を通して、生徒の読書習慣の確立や読書力の向上を目指し、家庭、地域と連携して、知力や情操を育む読書活動の推進に努める。
- ⑥ 生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、総合的な学習の時間、特別活動等の相互関連を図り、計画的、組織的なキャリア教育を推進する。特に、職業講話、職場体験、進路相談などを計画的・系統的に実施する。

(3) 健やかな身体を育成する学校

- ① 体力づくりに关心をもち、自らすすんで体育やスポーツに取り組む授業や部活動を推進する。
- ② 食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導について、教育活動全体で行うとともに、家庭や地域社会との連携を図る。
- ③ 「世田谷区立小・中学校におけるアレルギー疾患への対応の手引き」に基づき、食物アレルギー対応委員会を設置し、適切に対応する。
- ④ 部活動は課外活動であるが、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意して行われる活動である。中学校における部活動に対する期待と教育的効果を考え、全教員がこの指導に当たる。また、複数顧問をおくよう努力する。

(4) 家庭・地域が積極的に参画する開かれた学校

- ① P T A活動が活発で、「協力・協育」の姿勢がある学校をめざす。
- ② 地域運営学校の指定を受けるなど、地域参画型の教育活動を推進する。
- ③ 学校関係者評価委員会を設立して、学校関係者評価を実施し、学校改善に努める。
- ④ 学校協議会の充実を図り、教育活動、地域防災、健全育成に家庭・地域と共に取り組む。
- ⑤ ホームページ、学年だよりなどを充実させ、情報が家庭・地域に確実に伝わる工夫をする。
- ⑥ 学校行事への積極的な参加があり、保護者も生徒とともに育ち、学ぶ学校をめざす。
- ⑦ 「子どもぶんか村」、「ふれあい祭り」「防災訓練」など地域で行われている行事や活動などに積極的に協力するとともに、生徒の参加を積極的に呼びかけ、地域に学び、地域の一員としての自覚を高め、感謝する心や社会性を身に付けた生徒を育成する。

4. その他

(1) 生徒指導の充実

社会の急激な変化、家庭や地域の教育力の変化などに伴い、生徒たちは様々な悩みや不安をかかえている。その一部は、いじめや不登校などの問題行動として現れている。また、心身に障害のある生徒に対する特別支援教育の充実も課題である。このような実態に対して、生徒指導の基本は、

「厳しさと温かさ」であると考えている。生徒理解を深め、安心して学校生活が送れるように、生徒一人ひとりへの支援をしていく。具体的な方策として、

- ① 「挨拶」「時間」「身だしなみ」「掃除」を重点とし、基本的な生活習慣を確立させ、自己実現を達成するために、主体的に判断し、正しく行動できる自己指導能力を育成する。
- ② 自己の言動に対して責任をもち、社会規範を守る態度を育成し、「いじめ」や「暴力」が起きない教育を推進する。学校生活に関するアンケートを年3回行うとともに、QU調査の結果を共有し、いじめの早期発見、早期対策を行う。また、1年次は、いじめ防止プログラム及びネットリテラシー醸成講座を実施する。
- ③ 教師と生徒の人間的な触れ合いに基づくきめ細かい観察や教育相談を通して、生徒理解を深め、教師と生徒の信頼関係を築く。
- ④ 生徒指導上の問題に対しては、情報の収集と共有化を図り、迅速な対応、親身な指導、継続的な支援を心がけ、問題の早期発見、早期解決に努める。
- ⑤ 全教職員の共通理解と保護者の協力をもって、学校と家庭が同一歩調の生徒指導を行う。
- ⑥ 常に危機管理意識をもって、生徒の安全、防犯に努める。
- ⑦ 適応学級、教育相談室、警察、大学、教職員大学院など諸機関との連携体制を深める。
- ⑧ 特別支援コーディネーターを中心に、学校全体の支援体制を整備し、スクールカウンセラー、スクールサポートー等との連携を深め、個に応じた指導を推進し、特別支援教育を充実させる。

(2) 教育環境の向上

教育活動の効果を上げるために、良い教育環境を維持していかなければならない。そのためには、限られた施設や予算を有効に活用するとともに、人的な教育環境の向上にも努める。具体的には、

- ① 校内美化活動・掲示活動の推進や自然環境の整備を図り、落ち着いた学習環境をつくる。
- ② 定期的な点検を行い、迅速な施設の修理、改善を実施する。校内努力では対応できないものについては、教育委員会の協力をもとに、より良い環境の維持に努める。
- ③ 予算を有効かつ計画的に執行する。場合によっては、複数年で計画する。
- ④ 相談室を有効に活用して、教育相談、特別支援教育を充実させる。
- ⑤ 教育支援員、外部指導員、地域の人、大学生ボランティアなど人的資源を積極的に導入し、活用する。
- ⑥ 校内研修を計画的に実施し、教育活動の充実と教職員の資質の向上を図る。
- ⑦ 研究授業を実施し、授業力の向上と授業改善に努める。

II. 学校の概要

1. 校長 徳永 啓介

2. 学級数・生徒数

学年	1年	2年	3年	計
学級数	6	6	6	18
生徒数	209名	214名	219名	642名

3. 学校の特色

船橋希望中学校は、船橋中学校と希望丘中学校が統合し、4年目の学校で、保護者と地域の方々に支えられている学校である。教職員、生徒、保護者、そして地域が共に新しい伝統と文化をつくるという意識を強くもち、時間をかけて取り組んできた。平成26年度に新校舎が落成し、新校舎での生活は2年目となる。屋上緑化、太陽光パネル等の環境に配慮された校舎で、ICT環境も整い、普通教室には電子黒板が設置され、タブレットPCも18台配置されている。学校周辺の環境としては住宅地に囲まれ、畠や公園も多くある緑にも恵まれた地域である。

3年生は統合した翌年に入学した生徒で、卒業生たちの新しい学校を自分たちの手で作り上げていくという意識を引き継ぎ、3年生が範を示すという伝統を定着させ、多くの場面でその成果をあげている。また、全学年ともに、規律を守り、落ち着いた学校生活を過ごしている。さらに、明るく活発な生徒が多く、運動会や学芸発表会などの行事に本気で取り組み、達成感を実感する中で、人間関係を深めている。落ち葉掃きなどの清掃活動の生徒会主催のボランティア活動にも多くの生徒が参加している。生徒会役員やPTAが中心となり「あいさつ運動」にも取り組んでいる。一昨年度から、船橋希望学舎として同じ期間に行う「あいさつキャンペーン」を学期に1回実施している。

部活動も活発に行われており、都大会に出場する部も多い。世田谷区中体連総合体育大会では、2年連続女子の部で2位に入賞した。今年度は世田谷区立中学校陸上競技大会では、女子総合6位に入賞した。また、一昨年度から船橋希望学舎として世田谷子ども駅伝にも参加し、今年度は男女ともに優勝した。さらに、吹奏楽部や生徒会を中心に、地域の行事や青少年船橋地区委員会による子どもぶんか村活動にも協力している。

4. ホームページアドレス <http://school.setagaya.ed.jp/tfuu/>

III. 重点目標の評価および数値目標の達成状況

1. 人間的な触れ合いを深める環境をつくるとともに、コミュニケーション能力を高め、豊かな心の育成を図る。

「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた」と実感できる生徒を85%以上にする。

【達成状況等及び改善方策】

学校関係者評価アンケートの結果で、生徒の「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた」は、肯定的な評価が91%（89%）であり、目標達成を達成するとともに高い評価を得ることができた。さらに、後日実施した学校での学習についての生徒アンケートの同項目においても、実感できると回答した生徒が95%と高評価であった。また、保護者の「子どもたちは、運動会や学芸発表会で意欲的に取り組んでいた」では、肯定的評価が96%（96%）[（ ）内は昨年度の数値]とほぼ100%に近い高い評価であった。

今年度は、全学年6学級ということもあり、運動会と学芸発表会では、3年生が1、2年生に直接アドバイスする場面（時間）を設定した。さらに、態度、取り組み、内容においても、3年生が範を示し、全体をリードした。このことがしっかりと伝統として根付いた。今後も行事を通して、学校や学年、学

級への所属感や連帯感を深めるとともに、成就感や感動を体験させ、お互いに切磋琢磨し、鍛え合い・認め合い・支え合い・高め合える活動や充実感・達成感のある活動を推進する。さらに、人間的な触れ合いを深め、望ましい集団活動の場として、コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成を図っていく。

2. 日々の授業を充実させ、生徒一人一人に確かな学力を身につけさせる。

「授業の内容が理解できる」と実感できる生徒を80%以上にする。

【達成状況等及び改善方策】

学習習得確認調査をもとに課題を明らかにし、わかりやすい授業、興味のもてる授業を展開できるよう工夫し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用し課題解決が図れるよう取り組んでいる。その結果、学校関係者評価アンケート（生徒対象）において、肯定的な評価が85%（83%）[（ ）内は昨年度の数値]と高い評価を得ている。

これは落ち着いた学習環境が定着していることが要因の一つであり、本校の特色として今後も努力・継続をしていく。また、学習習得確認調査の結果の経年を比較してもその成果は明らかである。今年度は、「自分の考えをもち表現できる児童生徒の育成」をテーマとして、学舎の小学校と共同して研究を進め、繰り返し学習や振り返り小テストを実施するなどして、基礎的・基本的な知識・技能の定着の徹底を図るとともに、思考力・判断力・表現力を高める指導内容・指導方法も意識的に実施し、習得と活用のバランスのとれた授業を実践した。また、積極的なICTの活用やアクティブラーニングの実践など生徒が興味・関心を高め、主体的に学習活動へ参加し、生徒自らが意欲的に学習へ取り組み、考えを深めていく指導方法も実践している。次年度は、今年度している指導方法をさらに充実させ、生徒の意欲を高め、生徒が主体的に学習する習慣を身に付けさせていく。

3. 基本的な生活習慣を確立させ、自己実現を図るための強い心を育てる中で、一人ひとりが大切にされ、お互いが認め合い協力しあえる集団を育成する。

「学校のきまりを守って行動している」と自覚できる生徒を90%以上にする。

【達成状況等及び改善方策】

生徒の「学校のきまりをきちんと守って行動している」は、学校関係者評価アンケートの結果で、肯定的評価が1年生85%（87%）、2年生94%（84%）、3年生94%（91%）、全体で91%（88%）[（ ）内は昨年度の数値]であり、目標を達成とともに高い評価を得ている。集団としての集合状況や授業などを見ても、時間を守り、たいへん落ち着いた生活を送ることができている。引き続き、「あいさつ」「時間」「身だしなみ」「掃除」に重点を置き、基本的な生活習慣の確立を図っていく。また、「とても思う」と答えた生徒は、1年生36%（26%）、2年生45%（31%）、3年生45%（43%）と学年の進行とともに上昇するだけでなく、中堅学年である2年生の意識が高いことが、現在の落ち着いた本校の状況を表している。

保護者の「本校では、子どもたちに問題となる行動が少ない」は、肯定的評価が81%（71%）、地域の「通学している子どもたちは、社会のルールを守っている」は、肯定的評価が97%（85%）、「通学している子どもたちに問題となる行動が少ない」の肯定的評価は94%（94%）であった。生徒の行動を保護者も含めた地域全体で見守っていくことで、未然防止、早期解決に至っている。

また、生徒の「私は友達などの他の人に對し、認め合い、励まし合う気持ちをもっている」は、肯定的評価が86%（83%）であった。今後は、きまりに頼ることなく、自分で考え、正しい判断や

行動ができる生徒を育成し、お互いが認め合い協力しあえる集団を育てていく。さらに、教職員が個々の生徒の理解を深め、一人ひとりのよさを発揮させることで、自己有用感をもたせ、強い心をもった生徒を育成する。

IV. 地域とともに子どもを育てる教育の評価

1. 保護者・地域連携等

(1) 地域運営学校

学校運営委員会を年間8回行い、新しい伝統文化を築き、学校教育をより良い方向に進めるために、学校の様々な課題を協議している。また、多くの場面で協力をいただいている。また、今年度より本校は世田谷版「学校支援地域本部モデル校」として活動しており、学校支援コーディネーターが地域内外の方々や事業所と交渉や調整を行い、本校の教育活動を地域で支える体制づくりを進めている。学校関係者評価アンケートにおいても「学校運営委員会の活動について、十分な情報が提供されている」の肯定的な評価が74%（昨年度71%・一昨年度65%）であり、わからないという回答も17%（昨年度20%・一昨年度28%）となって、その活動が年々認知されていることがわかる。今後も学校支援コーディネーターや学校運営委員会の機能を活用して、教育活動の充実を図っていく。

(2) 学校協議会

学校協議会は、町会や商店街、青少年委員、民生委員、まちづくりセンター、消防署、警察署、P T Aなどの関係諸機関等との意見交換や交流の場として、地域と学校、地域同士の連携に大きな役割を果たしている。今年度も「防災防犯」、「健全育成」、「教育活動の充実」の3つの部会に分かれ、意見交換会を行った。さらに、学舎合同の学校協議会を開催するなど船橋希望学舎として、地域と学校の連携の活性化を図っている。しかし、その活動は一般的に浸透しているとは言い難いのも事実である。学校関係者評価アンケートの地域との連携についてでは、「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」の肯定的な評価は、保護者69%・わからない23%（66%・21%）、地域85%（84%）、「地域の活動や行事によく協力している」は、保護者78%・わからない17%（74%・18%）、地域91%（89%）、「学校協議会や合同学校協議会の活動について、十分な情報が提供されている（がよく役割を果たしている）」は、保護者70%・わからない21%（64%・26%）、地域74%・わからない15%（58%・11%）【（ ）内は昨年度の数値】であった。肯定的な評価は年々増えているが、依然わからないという回答が多い、今後も学校協議会や合同学校協議会の活動の充実や活性化をすすめると同時に、その活動内容や必要性について、隨時発信していく必要がある。

(3) P T A活動

今年度は「Let's enjoy」をテーマに生徒のため、学校のため、地域のために熱心な活動を繰り広げている。月1回のP T A運営委員会を軸としながら、P T A役員会が中心となり、各委員会をリードし、活発に活動が行われている。特に、学校行事への協力やP T A行事の主催・運営だけでなく、地域が主催の行事への協力的な支援活動は、地域に根付いたP T Aと

して重要な役割を担っている。教職員も自己評価の「PTA活動が活発に行われている」の項目で全員が肯定的な評価しており、その充実ぶりが伺える。今後は、教職員の協力体制をさらにわかりやすくし、生徒、保護者、教職員にとってより有意義な活動を展開していく。

(4) 家庭教育支援

PTAの研修委員会において、今年度は「これから時代に必要な力～一人ひとりが違った役割を担うために～」を年間の研修のテーマとして、単P研修会「発達特性に応じた子どもへの接し方」（講師：本校きぼう学級担任 小林正人）、第1回家庭教育学級「子ども自身が考え、選ぶ力を！」（講師：思春期子育て専門家 大塚隆司氏）、第2回「子どもの体力・健康をもとに食育について」（講師：本校栄養士 幸田蓉子）、第3回は船橋希望学舎合同「子どもの心をはぐくむ～自分で気づく力～」（講師：山本シュウ氏）をテーマに研修を実施した。すべての研修が思春期の子どもをもつ保護者にとって有意義な内容であり、その反響も大きかった。また、本校の2人の職員が講師を務めるなど、学校から発信したい内容も盛り込むことができた。

第1学年で5月当初、保護者向けの教科別説明会を開催し、中学校での学習方法や家庭学習の進め方について支援活動を行った。生徒向けに「中学校生活のしおり」を作成し、生活や学習などの具体的な指導を行った。次年度以降も継続していく。

2. 広報活動・情報提供

学校公開期間を学期に1回設定し、本校の教育活動を参観できる機会を設けている。学校公開期間ごとに参観者にアンケートを実施しているが、毎回高い評価と「授業がわかりやすい」「学校の雰囲気がよい」などの感想をいただいている。学校関係者評価アンケートの「学校公開や保護者会をとおして、学校の様子がよくわかる」の項目においても肯定的な評価が87%（83%）〔（ ）内は昨年度の数値〕と本校の教育活動を理解されている保護者が多いことがわかる。

また、今年度も学年ごとに学年便りを毎週発行し、学校関係者評価アンケートの「学校からの通信（プリント）に、保護者の知りたい情報が盛り込まれている」は93%（90%）と依然高い評価である。そして、学年だよりの返信欄の感想や意見からも、学校をよりよくしよう、学校を応援しようという保護者の気持ちが伝わってくる。

さらに、「学校のホームページは、わかりやすい内容になっている」の肯定的な評価は、保護者が79%（68%）、地域が79%（68%）と評価が上昇している。これは、ホームページの内容を充実させるとともに、学校日記を毎日更新し、常に新しい学校の様子を提供しているからであると思われる。次年度以降もこの結果に甘えることなく、開かれた学校として、教育活動や生徒の様子を迅速かつ丁寧に発信していく。

V. 未来を担う子どもを育てる教育の評価

1. 教育課程の実施にかかる状況の評価及び改善方策

(1) 教育目標

教育目標は、各教室、職員室、校長室などに掲示し、教職員も生徒も常に意識できるようにしているとともに、朝礼等の全校生徒が集まる場で校長が説明し、また、学年集会においても教員や生徒自らが発信するなど周知徹底を図ってきた。その結果、生徒の学校関係者評価アンケートでは、「友だちなど他の人に対し、認め合い、励まし合う気持ちをもっている」の肯定的な評価が86%（83%）、「深く考えて行動するように心がけている」の肯定的な評価は80%（73%）、「磨き合い、高め合う気持ちをもっている」の肯定的評価は77%（69%）〔（ ）内は昨年度の数値〕で、教育目標を意識し（心がけ）、日々の生活を送っていることがわかる。今後の課題として、3項目ともに80%以上となるように、一人ひとりの生徒の状況や気持ちを理解し、まわりと協力しながら伸びていく生徒を育成する。

また、保護者会、学校協議会などを通して、保護者や地域の方々への説明も行っている。保護者・地域の学校関係者評価アンケートで、「学校の重点目標が明確である」の肯定的な評価は、保護者が74%・わからない17%（67%・21%）、地域が88%（89%）である。重点目標は教育目標を具現化するための数値目標であり、さらなる周知を図り、生徒、保護者、地域、教職員が一丸となって、教育目標を実現する体制を構築する。

(2) 学習指導（教科「日本語」、総合的な学習の時間を含む）

① 生徒による学校関係者評価アンケートの「授業の内容はよく理解できる」は、肯定的な評価が85%（83%）であり、「通知表の評価されたことは、納得できる」の肯定的な評価は、保護者が80%（77%），生徒が84%（80%）〔（ ）内は昨年度の数値〕である。この結果より、本校の学習指導とその評価が妥当であり、生徒の学力向上につながっていると考えられる。

しかし、保護者アンケートの「子どもたちにとってわかりやすい授業が行われている」の肯定的な評価が71%・わからない14%、「授業をとおして、子どもたちに学力がついている」の肯定的な評価が65%・わからない11%であった。昨年度よりは肯定的な評価が増えているものの、今後もこの数字を課題として捉え、本校の学習指導のさらなる充実と周知を図っていく必要がある。

② 今年度も、数学（習熟度別少人数授業）、英語（習熟度別少人数授業）、音楽（ティームティーチング）、美術（ティームティーチング）の4教科で指導方法工夫改善授業を実施した。生徒に実施した学校での学習についての生徒アンケートの「習熟度別少人数授業やティームティーチングは継続した方がよいと思いますか」で、肯定的な評価は、数学93%、英語88%、音楽93%、美術90%であり、その効果や生徒の期待が高いことがわかる。次年度も継続していく。

③ 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、各学年ともに、定期考査前の放課後質問教室・朝学習や長期休業日の補習教室・自習教室を開設した。また、3年生では、数学、英語の放課後補習授業を2学期以降にそれぞれ12回ずつ実施した。

さらに、中学3年生を対象に進路選択に向けた実践的な学力を身につけるために、2学期からは「朝学習」「土曜講習会」を実施した。特に、土曜講習会では、基礎講座と発展講座の2コースを開設し、生徒の習熟の度合いに合わせた学習の機会を設けることができた。

④ 児童生徒の学力の定着状況を把握する「学習習得確認調査」の結果を基に、学舎の小学校と合

同で学習確認会議を開催し、学舎での学習課題を明確した。習得と活用のバランスのとれた授業を実施すると同時に、学年とともに内容が難しくなっていく中学校の学習を取得していくための基本は、「正確に速く、読める・書ける・計算できる」であることを確認し、実践している。

- ⑤ 学校での学習についての生徒アンケートの「教科『日本語』の内容は理解できる」の肯定的な回答は、1年生が95%、2年生が88%、3年生が78%であった。特に、1年生は内容の難しい「哲学分野」であるにもかかわらず、高い理解度を示しているのは、準備に時間をかけ、わかりやすい授業を行った成果である。今後も指導資料を活用し、指導方法を工夫しながら、深く考え、表現し、日本文化を継承していくように取り組んでいく。
- ⑥ 総合的な学習の時間に関しては、今年度はキャリア学習を柱として、探究的な学習を通して、まわりとのよりよいかかわり方や自己の生き方を考えることができる生徒の育成を目指してきた。職業調べ、職業講話、職場体験、上級学校訪問、都立高校の先生による出前授業、都立高校の校長先生による面接講座、また、キャリア学習ノートを活用した授業など、キャリア教育の系統性を見直し、計画的に実施した。学校での学習についての生徒アンケートの「総合的な学習の時間について」でも、充実していると回答した生徒は93%であった。次年度も主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成をめざし、横断的・総合的な学習に取り組んでいく。

(3) 各教科の取組と改善策

《国語》

- 目的に応じて、的確に読み取る能力を伸ばすため、正確に音読すること、指示語や接続語、キーワードを確認しながら読むことを意識させた。
- 目的や場面に応じて、筋道を立てて文章を書く能力を伸ばすため、100～200字程度で要約文や意見文を書かせた。
- 漢字の読み書き等、基礎的・基本的な内容を定着させるため、小テストや学期に一回のまとめの漢字テストを行う。また、生徒の実態に合わせて小学校漢字の補充プリントやテストを行う。
- 辞書や読書に親しむ態度を育てることで、語彙を豊かにさせていく。
- 論理的表現力を伸ばすため、テーマを決めてスピーチや集団討論の授業を行う。

《社会》

- 1・2年生では地理的分野→歴史的分野の順で学習を進めた。
- 地理分野は白地図を利用して地域的な特徴をとらえ、諸地域の位置を理解できるように進めた。
- ポイントがつかみやすいプリントを作成し、活用しながら授業を進めた。
- 単語の暗記ではなく「なぜ」という視点を重視しながら思考力・表現力の育成に努める。
- 単元が終わるごとに小テストを実施し、学習内容が着実に身に着くようにする。
- 新聞やニュース、資料集を利用して情報を多面的・多角的に取り入れるようにする。

《数学》

- ICTを効果的・効率的に活用し、関心・興味を高めるとともに、思考力・判断力・表現力を高めることができた。
- 全学年において、基礎的・基本的な知識・理解の確実な定着を目指し、反復学習を行った。
- 1年生では小学校との連携を大切にし、既習内容との関連を重視した指導を行う。
- 計算練習の時間・問題解説の時間・課題解決学習の時間をバランスよく配分した授業計画を作成し、実践する。

- 習熟度に応じた課題を準備するとともに、2・3年生では習熟度別少人数授業を実施し、個々の目標設定を明確し、達成感を味わわせ、意欲を高める。

《理科》

- 理科室が3つあることで、各学年で使用することが可能となり、実験の授業準備が容易になり、実験の機会が増え、実験を通して、深く考えることができるようになった。
- 実験や観察をしっかり行い、体験を通じて理解させることができた。
- 意欲を高める教材や指導方法の研究を継続していく。
- ICTを効果的に使う教材や指導方法の研究を継続していく。
- 理解が十分でない生徒があきらめないで学習に取り組むよう、補習などでフォローしていく。

《音楽》

- 2、3年生では、ティームティーチングの形態で指導し、合唱指導において大きな成果をあげることができた。
- 授業のまとめプリントの内容を工夫し、説明を聞いてすぐに練習問題に取り組むようにする。そして机間指導により、理解できていない生徒の支援をしていく。
- 声を大きく出す発声練習を取り入れ、パート練習時に一人ひとりの声をよく聞き、変声期の生徒など、必要な生徒には個別に発声指導をする。

《美術》

- ティームティーチングを行うことで個別指導の機会が増え、一人ひとりが意欲的に制作できるようになった。
- ICTを活用することで、視覚的にも分かりやすく、興味・関心が高まり、また、イメージもしやすいので、発展的な内容にも取り組むことができた。
- 各学年の発達段階に応じた課題や教材研究をしていく。
- さらに、授業規律を高め、落ち着いた雰囲気の中で、集中して取り組める環境を整える。

《保健体育》

- 興味・関心を高め、目標をもって取り組むことができるよう、学習カード等の工夫を行った。
- ICTを積極的に活用し、映像などを見せることで具体的なイメージづくりや各自の改善点を考えられるようにした。
- 体力テストの結果から、体力の強化は課題であり、一校一取組や授業の中での体力づくりにも重点において進めて行く。
- 剣道の専門家をゲストティーチャーに招いての授業を行った。来年度も引き続き行っていく。

《技術家庭》

- 生徒の習得程度をきめ細かく分析し、授業内容や課題をより理解できるよう工夫した。
- 実習を含む授業を組み立て、内容をより深める進み方を行い、生徒の意欲を高める。

《英語》

- 3年生では、さらに読解力を高めるために、年間を通じて、時事問題を含めた120語程度の英文読解を継続して授業の最初に行った。
- 1年生では少人数授業は実施せず、クラス単位での授業を行い、基礎的・基本的な知識・理解の定着と英語の学習方法を身につけさせる。また、2・3年生では習熟度別少人数授業を実施し、個に応じた学習により意欲を高め、達成感を味わわせることができた。

- 定期考査にリスニング問題を必ず出題した。インタビューテスト、スピーチテスト、パフォーマンステストなどを評価の中に取り入れ、聞く力や話す力を高めた。
- 定期考査以外にも、単語テストや基本文テストなどを実施する。また、理解が不足している生徒に対して、補習を実施していく。
- ＩＣＴの活用を進めている。さらに、効果的に使用できるように、またどの教員も活用できるように研修を継続していく。

2. 生活指導、道徳、特別活動、学校行事、体育・健康教育・食育、キャリア教育・進路指導、世田谷9年教育、特色ある教育、特別支援教育

《生活指導》

「あいさつ」「時間」「身だしなみ」「掃除」を重点とし、基本的な生活習慣の確立を図っている。生徒の学校関係者評価アンケートの「あいさつを心がけている」の肯定的な回答は91%（86%）、「時間を守るように心がけている」の肯定的な回答は90%、「清掃活動に真面目に取り組んでいる」の肯定的な回答は83%（80%）〔（ ）内は昨年度の数値〕であった。この結果からほとんどの生徒が意識して行動している様子がわかる。

また、考えさせる指導を心がけ、自分からあいさつをする、意見を言うなど、ＴＰＯに応じて考えて行動をするように指導している。今後も継続し、「きまりを守って行動している91%」の項目を含めて、さらに高い評価をめざす。

《道徳》

「豊かな人間性」をはぐくむために、教育活動全体を通して、自分自身や人、自然、社会とのかかわりについて深く考え、尊重し、切り開いていこうとする道徳性を養う。また、道徳の時間においては、道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方についての自覚を深め、よりよく生きるための道徳的実践力を身に付けさせることを主眼に置き指導している。

9月に実施した道徳授業地区公開講座の参加者アンケートでは、「生徒はよく考え、意見を発表している」の肯定的な評価は81%、「人間のよりよい生き方を考えさせる授業である」の肯定的な評価は88%であった。次年度は、人権教育やキャリア教育の視点も大切にしながら、豊かな心を育み、人間としての生き方を自覚し、道徳的実践力を高める指導の工夫を引き続きしていく。

《特別活動》

生徒会活動も順調に進むようになり、専門委員会、中央委員会、生徒総会、意見箱の設置などを通して、学校内の諸問題を解決する自主的、実践的な態度を育てることができた。また、役員会を中心となり、清掃ボランティア、ペットボトルのキャップ回収、あいさつ運動、一日一善プロジェクトなどを通して、集団や社会の一員としてよりよい人間関係を築こうとする態度が育っている。

さらに、学級活動や学校行事においても、集団への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度が育っている。

学校での学習についての生徒アンケートの「各種委員会・実行委員会及び係などの活動について」で、有意義である等の肯定的な回答は94%であった。生徒も自治活動や役割に対して、意欲的に取り組んでいることがわかる。

《学校行事》

学校関係者評価アンケートをみると、重点目標にある運動会や学芸発表会だけでなく、生徒の「楽しみにしている学校行事がある」の肯定的な回答は85%（84%）、「行事では、みんなが活躍するチャンスがある」の肯定的な回答は83%（83%）で、生徒が行事に期待し、自己肯定感を高めているかがわかる。保護者の結果を見ても、「子どもたちは、学校行事を楽しみにしている」の肯定的な評価が91%（91%）。「子どもたちが活躍する場面がたくさんあり、内容が充実している」の肯定的な評価が91%（87%）〔（ ）内は昨年度の数値〕と高い数値である。

学校行事を通して、生徒自らが目標をもって積極的に参加しながら、協力してよりよい人間関係を築き、達成感や自己有用感をはぐくむことが本校の伝統となりつつある。

《体育・健康教育・食育》

学校での学習についての生徒アンケートの「各教科についてのアンケート」の保健体育は、理解できる・有意義である等の肯定的な回答が96%であった。これは全教科の中で、最も高い数値であり、わかりやすい説明やＩＣＴ、自己評価シートの活用などで生徒の意欲を高めている成果である。世田谷区中体連総合体育大会での2年連続女子の部で2位、世田谷区立中学校陸上競技大会での女子総合6位という結果にも表れている。

定期的に保健だよりを発行し、保健給食委員を活用した保健体験を行い、その結果を校内に掲示するなど健康管理や健康維持に努めている。

食育に関しても、学校栄養士が献立に関する一口メモを毎日発行し、生徒の食に関する知識や教養を高めている。また、ランチルーム給食を実施するとともに、食に関する講義を行い、生徒一人ひとりが望ましい食習慣を身につけ、食事を通して自らの健康管理ができるように指導を進めている。

今年度の全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して、94%の生徒が食べていると回答し、この結果は、東京都、全国の平均よりも多く、生徒や保護者が健康に留意していることがわかる。

《キャリア教育・進路指導》

今年度は、キャリア教育の学習内容と実施時期を見直し、計画的に実施した結果、生徒の学校関係者評価アンケートの「将来の生き方や進路について考えさせられる授業がある」の肯定的な評価が81%（69%）〔（ ）内は昨年度の数値〕と上昇した。特に、1年生の肯定的な評価が74%（52%）と大きく上昇したことが実施時期の見直しの成果であると考えられる。しかし、「進路に関する情報が十分に提供されている」は66%（54%）と昨年よりは上昇しているもののまだ課題がある。その原因の一つにキャリア教育は充実してきているが、進路＝進学のイメージが強いことがあげられる。さらに、本校としてのキャリア教育の周知と充実を進めていく必要がある。

また、保護者のアンケートの「子どもたちに将来の生き方や進路について考えさせられる指導が充実している」でも、肯定的な評価が66%（60%）と上昇しているものの、わからないという回答が19%もあった。このわからないを減らし、肯定的な評価をさらに増やしていく。

《世田谷9年教育》

保護者の学校関係者評価アンケートの「『学び舎』の活動について十分な情報が提供されている」の肯定的な評価は67%（56%）、「『学び舎』の区立小学校について十分な情報が提供されている」62%（54%）〔（ ）内は昨年度の数値〕とともに上昇している。また、わからないという回答もそれぞれ18%（昨年26%・一昨年31%）、24%（昨年29%・一昨年38%）と減少している。これは世田谷9年教育が徐々に認知されてきたことと、ホームページなどの広報活動の充実が要因であると考えられる。しかし、生徒アンケートの「『学び舎』の区立小学校との交流が活発である」の肯定的な評価は51%（40%）、わからない23%（25%）であり、上昇はしているもののまだまだ低い数値である。世田谷子ども駅伝や部活動交流のような取り組みが、もっと全体に伝わるように情報の発信を工夫していく必要がある。

学習習得確認調査の結果を基にした学舎合同学習確認会議などの学び舎の教職員同士の連携は成果をあげている。

《特色ある教育》

本校の特色ある教育活動としては、世田谷区に予算申請をして、3年生対象に狂言教室、茶道教室、和楽器講習会、1年生対象に職業講話、全学年対象に落語鑑賞教室を実施している。どれも生徒にとっては、日本の伝統文化の継承や将来の生き方を考えるのに意義があるものとなっている。

その他にも、青少年船橋地区委員会主催の中学生研修会を開催し、生徒が自分自身を見つめ、自分と社会との関わりを考え、将来、様々な生き方や進路の選択の可能性があることを理解する機会を設けている。今年度は、東京大学大気海洋研究所海洋生命科学部門行動生態計測分野教授の佐藤克文氏を講師として招き、野生動物の視点から見た様々な発見を通して、想像力を働かせることの大切さなどを学ぶことができた。また、1年生を対象に、区の社会福祉協議会と連携して、福祉学習や高齢者疑似体験などの授業を行い、人権感覚を高めることができた。

さらに、教室に入ることのできない不登校傾向の生徒に対して、心理学を学ぶ大学院生を中心とした学生ボランティアに来てもらい、相談室で、学習をサポートするスクールソポーター制度も本校の特色の一つである。この制度により、家に引きこもりがちな生徒が登校することもできている。

《特別支援教育》

週に一回、特別支援教育校内委員会を開き、特別支援教育コーディネーターを中心に、特別な支援を必要とする生徒の情報交換や対応策の検討を行っている。また、その会には、スクールカウンセラーや通級指導学級の担任も参加し、適切なアドバイスを行っている。そして、その内容を迅速に回観し、全教職員が共通理解のもと適切な支援を行っている。

また、区費講師を活用し、通常学級における特別な支援を必要とする生徒に対し、個別指導を行い、学校生活における満足感を高めている。

3. 部活動の取組状況の評価及び改善方策

今年度の部活動加入率は86%であり、高い加入率である。また、加入していない生徒のほとんどは校外で何らかの活動を行っている。

生徒の学校関係者評価アンケートの「学校全体で、部活動は充実している」においても84%（82%）の生徒が肯定的な回答をしており、その中でも「とても充実している」と回答した生

徒が 55% (47%) [（ ）内は昨年度の数値] と過半数を超える結果となった。多くの部が活動した成果が表彰などの目に見える形で表れ、充実感と達成感を味わえることが大きな要因であると考えられる。

VI. 信頼と誇りのもてる学校づくりの評価

1. 学校経営・学校運営にかかる状況の評価及び改善策

(1) 学校評価

今年度から学校関係者評価アンケートだけではなく、年間を通じて計画的に学校評価（年3回の学校公開期間や運動会や学芸発表会などの保護者・地域が参観できる行事）を行い、本校の教育活動の迅速な改善に役立てている。また、数値だけでなく、意見や要望なども真摯に受け止め、学校運営委員会でも検討し、教育活動の改善に努めている。

(2) 教職員

保護者の学校関係者評価アンケートの「本校の教職員は、教育活動に熱心に取り組んでいる」の肯定的な評価は 85% (84%) であり、生徒アンケートの「先生に指導されたことは、納得できる」の肯定的な評価は 88% (85%) 、地域アンケートの「教員は、子どもたちのよき手本となっている」の肯定的な評価は 88% (79%) であった。この結果から、本校の教職員は生徒、保護者、地域の方々から信頼を得ていると言える。しかし、そうでないと思っている回答もあることを真摯に受け止め、魅力があり、信頼のできる教職員集団による、地域が誇れる学校づくりを進めていく。

(3) 研修・研究

今年度は、特別支援教育についての校内研修を PTA の単 P 研修会と連携して行うなど、生徒一人ひとりを大切にした指導を実践するために生徒理解の研修を行った。また、授業における I C T の活用にも力を入れ、校内研修を行い、I C T を効果的・効率的に活用する教科が増えた。今後は生徒自身によりよい生き方を身に付けさせるために、キャリア教育や特別な教科「道徳」などの研修にも取り組んでいきたい

(4) 保健・衛生等管理

保護者の学校関係者評価アンケートの「校内の環境や給食等への衛生面での配慮がなされている」の肯定的な評価は 82% であった。わからないという回答が 14% であり、否定的な評価はほとんどなかったが、まだ、改善していく点はあると受け止め、今後も配慮していく必要がある。

学校保健年間計画に基づき、学校行事や季節に即した保健管理・指導を行っている。学校医、学校歯科医、学校薬剤師の指導の下、適切な環境衛生を運営している。また、年に一回、学校保健委員会を開催し、学校と家庭の役割を明確にし、学校における健康の問題を研究協議し、それを推進している。今年度も 2 月に開催し、有意義な会となった。協議事項を実践に結びつけていく。

(5) 安全管理

保護者の学校関係者評価アンケートの「安全指導や避難訓練を通して、子どもたちの安全性を高めている」の肯定的な評価は88%と高い評価であった。さらに、地域の「安心・安全な学校づくりを進めている」の肯定的な評価は97%であった。しかし、学校は生徒の安全性に対しては100%でなければならない。今後は、100%に近づけるよう、これまでと同様に、PTAや地域の協力を仰ぎながら、年間の安全指導の計画を見直し、より実践的で有意義な安全教育を推進していく。

(6) 出納・経理

予算編成から予算執行まで管理職の決済によって行われ、執行状況も随時管理職が確認した。さらに、毎月の職員会議で教職員に報告され、適正に行われた。また、私費会計の処理・管理も担当教員と会計事務担当職員と事務主事により適切に行われている。教職員の自己評価においても、否定的な回答は0であるが、わからないという回答が少数あり、全教職員が意識を高めていく必要がある。

(7) 文書・情報管理

学校から発信する文章は校長の決裁を得てから発信している。文書の管理と整理も適切に行っている。

指導要録等の記入・点検・整理は教務部を中心に行い、管理職が確認している。また、個人情報の管理も、鍵のかかる金庫やロッカーに保管し、管理職確認のもとで管理している。

VII. 教育環境の整備の評価

1. 施設・設備の管理の状況等の評価及び改善方策

昨年度から新校舎となり、施設・設備の安全性に関しては、最新のものであり、信頼性は高い。保護者の学校関係者評価アンケートの「本校の施設は安全性が、確保されている」の肯定的な評価は85%・わからない12%、さらに、地域の「学校施設はの安全性は確保されている」の肯定的な評価は91%・わからない6%であった。この結果から、本校の施設の安全性に対して、保護者・地域からの信頼度は高いと言える。今後も、管理職による1日2回の校内巡視や事務主事・学校主事による定期的な設備点検、教職員の高い意識などにより、安全性の高い施設・設備を維持していく。